

NPO法人「日本で最も美しい村連合」 審査評価基準 チェックシート

審査日（2022年9月26日～9月27日）

審査項目		格付評価	自己採点記入者名	二宮かおる
			加盟町村（地域）	
			格付（A～D）	格付け判断の基準
			審査員コメント	
審査前提	■田舎としての特徴を持っている事（基本項目）			
	直近の住民基本台帳上の人口が概ね10,000人以下		該当有り	該当することが加入条件。
	地域資源が2つ以上あること		該当有り	該当することが加入条件。
	第1次産業が地域の基幹産業として認識されていること		該当有り	該当することが加入条件。
	連合に加盟することへの議会の同意がとれていること		該当有り	該当することが加入条件。
I	■「日本で最も美しい村」連合加盟村にふさわしい方針と景観を持っている事（必須事項）			
	連合の長期ビジョンと方向性が一致する長期ビジョンを有している。 もしくは5年以内に策定するコミットメントがある。		■第6次小坂町総合計画（前期基本計画/2021年度～2025年度） 基本構想 ・町民が幸福で暮らしに安心・魅力・楽しさのあるまち ・風土を守り、躍動・成長を支えるまち ・これからも住み続けたい、訪れたい、関わりたいまち（小坂町記入のとおり）	
加盟前提	II 連合加盟村にふさわしい魅力的な地域資源を有している（地域資源）			
	生活の営みと深い関わりのある景観が存在する事		A	
	①伝統的なまちなみや統一感のある木造建築がある	【美の基準】 ・村の目印 ・歩く楽しみ ・ほどよい建物の大きさ ・土地から生まれた形 ・自然な材料と職人の仕事 ・暮らしの中の芸術	■明治百年通りおよび近代化産業遺産 国重要文化財「康楽館」では現役の芝居小屋として使用しながら保存している。幕間にも見学を積極的に受け入れ、知ってもらうことで認知を広げている。「小坂鉱山事務所」は移築しており、一連の建物群と合わせて見学ができる。冬期にはクリスマスマーケットを開催し、明治建築の魅力が観光客を集めている。1993年に電柱埋設（マイロード事業）完成。 ■小坂駅舎 配線後も保存して見学者を受け入れている ■十和田ホテル 国有形登録文化財の秋田杉の館。定期総会で利用させていただいた。ホテルの魅力でわざわざ宿泊する客もあり、今後も安定的に経営していただき、保存の継続を望む。	
	②周囲の豊かな自然環境に根差した里山・里海の生活の営みによって作られた景観	【美の基準】 ・暮らしの営みが息づく場所 ・村の目印 ・日常の暮らしの記憶 ・歩く楽しみ ・ふさわしい色 ・土地から生まれた形 ・土地の植物 ・ふだんの緑 ・里山・里海の風景	■十和田湖西湖畔 十和田八幡平国立公園として景観が保護されている。今年夏より十和田ふるさとセンターにおいてサップやカヌーなどの水上アクティビティの選択肢ができ新たな客層の誘致がみこめる。来年、道の駅も開設する。 ■アカシア並木 明治百年通りほか町内300万本 ■大地地区のひまわり 「守りたい秋田の里地里山50」にも選定されたひまわり畑。花シーズンオフにつき今回審査では見学なし。	
	文化が存在すること		B	
①地域に根ざした伝統芸能や歴史的に地域と歩んだ祭礼等が継続している	【美の基準】 ・聖なる場所 ・村の目印 ・助け合い ・人が集まる場所 ・ハレの日	■小坂音頭 康楽館の復活を機に生まれた踊り。30数年の歴史。連合定期総会でも披露された。 ■小坂七夕祭り 青森ねぶたの流れをくむといわれる町の伝統的な祭り。キャラクターの山車はこどもたちに人気の様子。開催時は多くの観光客や町民が集う場となる。		
②地域の素材を活かした食文化や地域が育んだ伝統工芸が存在する	【美の基準】 ・日常の暮らしの記憶 ・自然な材料と職人の仕事 ・地の生む材料 ・庶民の手仕事 ・食に関わる職人	■小坂七滝ワイン 1988年農地利用の目的で栽培が始められた「山ぶどう」を原料とする。2017年醸造開始した小坂七滝ワイナリーで製造される純小坂産ワイン。普及には白とロゼをすすめるのが良いと思われた。すでにある地元食材とのマリージュのみならず、ワインに合う食材の開発にも今後期待する。 ■アカシアはちみつ 鉱山の煙害により木々が失われたことを機に植えられ、今では町に約300万本以上あるといわれているアカシア。小坂町の花でもあり、それから採れる濃厚なはちみつは町および周辺地域で養蜂され、町の特産となっている。 ■十和田湖ひめます 1884年養殖事業開始。養殖成功までに22年を要す。2015年「十和田湖ひめます」地域団体商標登録。 ■桃豚 民間のポーランドグループのブランド豚。全農場でJGAP取得 2019年「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」で農林水産大臣賞を受賞		

◆世襲財産の継承			
世襲財産を保護する公的な規制が存在する		格付評価	A
景観保護条例や開発規制などが制定されている	【美の基準】 ・歩く楽しみ ・ほどよい建物の大きさ ・ほどよい便利さ ・里山・里海の風景	■小坂町景観条例制定（2014年） 自然公園地区と市街地区を区別して記載 ■小坂町景観計画（2014年） 守るべき対象について具体的に記載されている ■自然公園法（十和田八幡平国立公園） ■文化財保護法（康楽館、小坂鉱山事務所） ほか秋田県自然環境保護条例、秋田県文化財保護条例でも守られる対象となっている	A:景観条例に加えて広告物規制が整備され、村内には私的な広告看板がない。 BC:景観規制の条例があるが、課題がある。
◆住民参加			
地域の価値を高め、発展させる努力		格付評価	B
①交通量の一時的又は永続的な制限がある、駐車場の整備されている	【美の基準】 ・歩く楽しみ ・ほどよい便利さ	■明治百年通りのイベント開催時の通行規制 駐車スペースは多くあり大型バスでの来町も可。アカシアまつりやクリスマスマーケットといったイベント開催時には、通行規制を設けている。路線バス運行あり。高速バスも町内に発着所がある。	A：世襲財産該当地区への車の乗り入れ禁止とそれを可能とする規模の駐車上の整備ができており、I/Uターンの増加、交流人口の増加などにつながる成果が出ている。 BC：交通量の一時的な制限があり、駐車場の整備がされているが、課題が残っている
②木造建築の保存・復活・活用に取り組んでいる	【美の基準】 ・日常の暮らしの記憶 ・ほどよい建物の大きさ ・土地から生まれた形 ・自然な材料と職人の仕事 ・地の生む材料 ・暮らしの中の芸術	■近代化産業遺産の定期的な修繕（国重要文化財の許認可事項） 「活用なくして保存なし」を掲げ、着実にそれを実行するために、文化財保護の観点と観光客をはじめとした利用者の安全確保の双方の視点から定期的な点検を行い、それらをもとに定期的な修繕を行っている。（小坂町記入のとおり）。	A：木造建築を復活・活用した賑わいのある中心街地づくりに取り組み、I/Uターンの増加や交流人口の増加などに繋がる成果が出ている。 BC：木造建築復活、活用に取り組んでいるが、課題が残っている。
③電線・電話線の設置に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 ・歩く楽しみ ・里山・里海の風景	■明治百年通り、ワイナリー周辺の電柱地中化 国のマイロード事業を活用	A：電線・電話線の設置に関するルールが制定され、電線・電話線の再配置が実現されて景観価値を高めている。 BC：世襲財産該当地区での電線・電話線の再配置に取り組んでいるが、課題がある。
④全体の色彩や素材に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 ・日常の暮らしの記憶 ・ふさわしい色 ・地の生む材料	■小坂町景観条例 町全域を景観計画区域に指定し、自然地区、市街地地区、重点景観形成地区に細分化したルールを設けている。具体的な素材や色彩の指定はなし。	A：景観条例等により色彩や素材に関するルールがあり、その適用が進み統一的な集合景観価値が高められている。 BC：自主的な色彩や素材にかんする景観配慮に対する取り組みがされているが、課題がある。
⑤看板の設置に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 ・歩く楽しみ ・里山・里海の風景	■明治百年通り 看板は明治を連想させる統一のあるデザインとし、街並みとの調和を図っている。	A：看板や掲示物、のぼり旗の設置を規制するルールが制定され、実効的に景観価値を高める機能果している。 BC：景観を損なう看板の設置に対する規制はあるが、課題がある。
⑥地域で認定されたガイド制度が存在している	【美の基準】 ・歩く楽しみ	■小坂町観光案内人協議会 2003年の設立以来、明治百年通りおよび十和田湖西湖畔遊歩道の案内を中心に活動している。連合定期総会においても、丁寧なガイドをしていただいた。来町者にはガイドを積極的に利用してもらえよう周知してほしい。	A：地域で認定されたガイド制度が存在し、持続的で専門性が高く魅力的なガイドが複数活躍しているとともに、継続的なガイド育成の仕組みがある。 BC：地域を案内するガイドがいるが、課題がある。

地域の活力を高め、発展させるための住民の自主的な取り組み		格付評価	B
①植栽や草刈りなど住民の自主的な美しい村づくりの取り組みがある	【美の基準】 ・土地の植物 ・助け合い ・里山・里海の風景	■自治体全体としての取り組み 町の管理地のみならず、私有地においても植栽の手入れがゆき届いておりたいへん美しい。自主的に取り組む自治会には町のサポートがある。	A：植栽や草刈りなど住民の自主的な美しい村づくりの取り組みがあり、地域の景観形成に大きく貢献している。 BC：自主的な住民の植栽や草刈り運動が存在するが、課題がある。
②自主的に運営されている住民活動があり、組織化されている	【美の基準】 ・助け合い ・ハレの日	■クリスマスマーケット、アカシア祭りほか多くの観光客を集めるイベントの準備運営はほぼ町民手作りである。 ■パソコン・スマホサークル八重桜 シニア層のパソコン・スマホのスキルアップを目的とする。町の観光PR動画の作成等を実施。 ■小坂鉄道保存会 小坂精錬小坂線は2009年に廃止されるが、駅舎や記念的車両が保存されている。小坂鉄道レールパークとして体験観光プログラムの企画運営を保存会がおこなっている。メンバーは町内外から。小坂～大館の風景に線路は欠かせず、往時がしのばれる。大館ではレールバイクが人気。	A：地域の多様な人材による、美しい村づくりに関する住民の自主的な活動が持続的に展開される組織があり、行政がしっかりと支えている。 BC：地域に自主的に運営されている住民活動があるが、課題がある。
③住民活動と行政の活動が連動している	【美の基準】 ・助け合い	■康楽館友の会 康楽館の復活を支援する活動がはじまりとなり、その後は側面から康楽館をサポートする住民による組織。 ■まちづくり株式会社が多く観光事業を運営している。従事者はすなわち住民であり、町を愛する気持ち、良くしたいという気持ちで仕事をする方が多いようにみうけられた。	A：住民の自主的な活動を効果的に行政が支え、共に当事者として地域の発展に寄与している。 BC：住民活動と行政の一体となった活動があるが、課題がある。
④独自性のある良質な行事が存在している 【美の基準】 ・助け合い ・ハレの日		■クリスマスマーケット 「近代クリスマス発祥の地」として2013年よりイベントを開催。冬期間に町民や観光客が集う機会となっている。町民が積極的に参加し手づくりの運営がされている。洋風建築の多い明治百年通りでおこなれるので、ヨーロッパのクリスマス風景のようである。 ■アカシアまつり 300万本といわれるアカシアの開花時期に多くの観光客を集めている。クリスマスマーケットと同様、町民の積極的運営参加がある。 ■濁川の虫送り 町北部の濁川地区で江戸時代にはじまったといわれる行事で町無形民俗文化財。人出不足で一度途絶えるも、青森県でのイベントをきっかけに復活し、大切に継承されている。	A：地域の活力を高め発展させるための、独自性のある良質な行事が継続しており、住民の誇りや愛郷心を醸成する効果が出ている。 BC：独自性のある行事が実施されているが、課題がある。
⑤行事の際に使用可能な屋内、屋外の場所有存在している 【美の基準】 ・助け合い ・人が集まる場所 ・ハレの日		■小坂中央公園・国際交流広場・小坂町交流センターセパーム アカシアまつりやワイン創業祭などのイベントが開催され町内外の交流の場となっている。屋内施設である小坂町交流センターセパームは、学校・教育やスポーツ関係をはじめとしたイベント会場に活用されている。 ■旧小坂中学校の校舎を現在の役場として活用している ■七滝活性化拠点センター 廃校となった旧七滝小学校の校舎を整備した貸事務所のテナントが埋まっている。日本語学校や武芸道（刀）の道場としても利用され、交流人口の拡大や国際交流の拠点としても機能し、町へ大きな貢献をしている。 ■ふるさとセンター 十和田湖の自然に親しむアクティビティ、BBQが楽しめる。カフェ、コワーキングスペースもオープン。	A：住民が自由に活用できる、使いやすい、地域に根ざした行事の魅力を高める公共の施設が存在する。 BC：住民が使用可能な施設が存在するが、課題がある。

◆経済的自立

入りを増やし、出を制する、経済的な自立を目指す努力	格付評価	B	
①広域連携を含む食、住、エネルギーの地域内の自給を高める努力がされている		■じゃがいも栽培 大手菓子メーカーとの提携によるじゃがいもの栽培。町主導で上向地区に畑作センターを整備し、拠点として強化。町内だけに留まらず、町外も含めた自給率向上に努めている。今年は豪雨被害で評価ができなかった。 ■若者定住促進住宅 町外からの若年層の定住を目的とし、町の住の自給を高めるための事業。現在2地区にあり、今年度新たに建設される。町外からの移入者優先。小坂精練勤務者、大館に通勤する人などに利用されている。 ■エネルギー 年度内に計画を具体化する。電気自動車の活用、木チップボイラーの導入などを計画。	A：食・住・エネルギーの自給や地域通貨の導入により、地域内でお金が循環する取り組みがされ、継続的に地域の自給率を向上させる仕組みができています。 BC：地域内でお金が循環する取り組みがされているが、課題がある。
②美味しい村づくりへの地域をあげた取り組みが展開されている(地域の美食革命) 【美の基準】 ・食に関わる職人		■小坂七滝ワイナリー 2017年開業。町内産の「山ブドウ」系品種を原料に、「純小坂産」の日本ワインを醸造している。小坂町乾杯条例の制定や町全世帯へのワイン購入券の配布など町民とより密接な特産品となるための取り組みを強化している。 ■小坂町かつらーめんBoo会 町内7店舗が参画して組織されている。「桃豚」をはじめとした地元ブランドの豚肉を使用。 ■ブランド肉桃豚 JGAP取得の事業者が生産。国内産飼料米で飼育されている。ふるさと納税の返礼品、町内飲食店、宿泊施設で提供されている。	A：伝統的な料理法により地場素材を活かす多様性のある美味しい食が存在し、地域住民の誇りが醸成されているとともに、交流人口の増加など地域経済の活性化に貢献している。 BC：伝統的な料理法による地域資源を活かした美味しい料理があるが、課題がある。
③ツーリズムを支える地域にお金が落ちる宿やレストランの選択肢がある 【美の基準】 ・食に関わる職人		■小坂七滝ワインとのマリージュセミナー シニアソムリエを講師に迎えたセミナーを通じ、町民や事業者がワインと地元食材の魅力を学ぶ機会を設けている。 ■十和田湖湖畔整備・誘客促進協議会 十和田湖の宿泊業者をはじめ、関係する事業者による組織で、町が事務局を担当し、二次アクセスの運行や情報交換を通じ、その名のとおりに整備と誘客を促進する取り組みを行っている。十和田ホテル、プリンスホテル等魅力的な宿泊施設あり。■ふるさとセンター内のカフェは食事、デザートもおいしい。鹿角市の農家の野菜を使用。	A：それぞれの価格帯に応じて、美しい村連合の志を尊重した質の高い宿や質の高いレストランが複数存在し、交流人口の増加や地域の雇用の拡大など活性化に資している。 BC：質の高い宿やレストランが存在するが、課題がある。
④若者や女性の雇用や起業を支援する活動が展開されている 【美の基準】 ・食に関わる職人		■起業支援 創業チャレンジ事業（創業支援補助、雇用奨励金の支給）	A：地域で若者や女性の雇用拡大や起業を支える仕組みや活動が複数展開されており、現実に起業や雇用創出などによるU/Iターンの増加で具体的な成果が出ている。 BC：若者や女性の雇用拡大や起業に取り組んでいるが、課題がある。
⑤地域資源を活かした持続的な地場産業が複数育成されている 【美の基準】 ・庶民の手仕事 ・生業作り ・食に関わる職人		■十和田湖ひめます 和井内貞行氏が生涯をかけて十和田湖への魚の養殖を成功させてから、100年以上もの年月が経った現在ではふ化場が整備され、その技術が受け継がれ、「十和田湖ひめます」としてブランド化されている。 ■製錬技術を活かしたリサイクル事業 小坂鉱山の繁栄にかつて大きく寄与した製錬技術を活かし、携帯電話など電子部品から金属を抽出するリサイクル事業が盛んに行われている。	A：地域資源を活かした地場産業が複数育成され、具体的に地域の雇用確保など地域経済活性化に貢献している。 BC：地域資源を活かした地場産業の育成に取り組んでいるが、課題がある。

審査員チェックシート(二宮委員)

※首長の想いやリーダーシップ、および今後のビジョン展開		格付評価		B	
首長の想いや、リーダーシップが発揮され、今後のビジョン展開が明白であること				まちづくりの根幹となる「第6次小坂町総合計画」を策定し、“ひとと自然と文化を未来につなぐ魅力あふれるまち”を目指した取り組みが行われている。鉱山開発によって栄えた歴史の恩恵は大きく、現在もリサイクル精錬の技術は世界でもトップクラスである。しかし人口減少はとまらず、高校も廃校になる。首長と行政はこれまで以上に住民との議論の場をもうけ、活気にあふれ誰もが住みたくする持続可能な小坂町の未来図を具体的に描くことが急務であると思われる。	A：30年先を見据えた村の長期ビジョンが明確になっており、首長のリーダーシップの元、目標を目指して住民と行政が一体となった取り組みが着実に実行されている。 BC：首長に美しい村の理念と合致したリーダーシップやビジョンがあるが、持続性や安定性、実行力、住民意識などに課題がある。
※上記内容では、判断できない点の評価		格付評価		A	
※上記内容では、判断できない点の評価				■町民がこころ優しく、外からの人々の受け入れに柔軟である。どこを訪れても植栽の手入れが行き届いており、花が植えられている。■町のウェブサイト「町のあゆみ」が詳細にまとめられており、たいへんわかりやすく学べる。が、深いところにうもれているのでアクセルしやすくしてほしい（小坂町 町のあゆみで検索）。■鹿角・盛岡広域エリアの観光パスポートを作成し交流人口拡大につとめている。	
総合評価	B				
●格付毎の判断基準		A 最も美しい村としての条件を十分に満たしており、全加盟村にとって模範的な状態である。			
模範：A		B 最も美しい村の基本的条件は満たしているが、まだ不十分な分野も一部あるため、更なる格付け向上への改善努力が望まれる。			
許容：C		C 最も美しい村として認められるだけの最低限の条件を満たしているが、不十分なところがまだ多くあり、抜本的な改善のための努力が望まれる。			
		D Cの基準に満たない（または該当がない）			

審査員メモ

評価点

- ・鉱山開発で栄えた歴史を誇りにし守っている。連合加盟以前より建築物保存や電柱埋設化をおこなうなど、町づくり計画が周到にされている。
- ・前回審査時の課題であった「ふるさとセンター」の活用に進展があった。アクティビティプログラムも魅力的でカフェの食事もおいしい。まずは町民、近隣市町にとっての人気スポットになってほしい。
- ・十和田湖畔道の駅開業にはにぎわいが期待できる。
- ・来訪者に対してウェルカムな姿勢が行政、民間ともにある。リピート訪問したい町。

格付け向上課題

- ・七滝ワインの周知拡大に期待する。近隣市町へも強くアピールして北東北を代表する産品への成長を願う。
- ・魅力的な食の発信がさらになされると良い。すでに良い素材がある。近隣市町からもわざわざ訪れる価値のあるレストランや加工食品などが生まれることを期待する。
- ・車をもたない来町者のための交通インフラの充実。ハイシーズンだけでも中心街と十和田湖畔へのアクセスが容易だと助かる。
- ・住む町として選ばれるサービス、働く場の拡大と充実。
- ・小坂レールパークはたいへん魅力的施設であるので継続的に運営をしていただきたい。大館ではレールバイクがにぎわっていた。